第９回「スポーツ吹矢はジェンダー平等女性の活躍を期待!!」

「ジェンダー（性差）平等を実現しよう」は国連の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ＝エスディジーズ）の一つにもなり国際的な課題になっています。

しかし日本では残念ながら「ジェンダー平等」は進んでいません。例えば世界情勢の改善に取り組むことを目的とした国際機関の世界経済フォーラムが各国の男女平等度を順位付けした２０２２年度版「ジェンダー・ギャップ指数」によると日本は調査対象の１４６か国中なんと１１６位でした。「ジェンダー平等」の実現は日本の喫緊の課題となっているのです。

青柳清は、その「ジェンダー平等」に取り組んだ先駆者の一人でした。青柳清は41歳で脱サラして１９７８年（昭和53年）、書店の全国展開を考えて株式会社ダイセイコーを立ち上げました。

知力では男女差はない

青柳清はダイセイコーの創業時から積極的に女性を採用しました。その理由について青柳清は実業之日本社の「オール生活」１９９２年11月号の「女性店長活用で成功した書店チェーン」でこう語っています。

「仕事の能力については男女間に優劣はほとんどないと言っていいのではないですか。とくに知力においては男女の差はなくて体力・腕力において多少、男女差があるくらい。書店と言う職場に限って言えば男性よりも女性の方に軍配が上がるというのが私の考えです」

女性がお客様の立場でものを考えてくれることも青柳清はわかっていました。ダイセイコーがどこよりも早く通信販売を始めるきっかけとなったのも、そんな特性を持つ女性の店長のアドバイスからでした。その女性店長は書店のレジの脇に「健康コーナー」を設け、健康雑誌の記事と連動させた商品を置くことを提案してくれたのです。こ

れがお客様に大好評、健康食品の通信販売を始めるきっかけとなり、ダイセイコーのビジネスの領域を広げました。
　青柳清は女性の能力をただ活用しただけでなく、きちんと処遇をして報いました。ダイセイコーの書店は一時、全国で16店舗まで広がりましたが青柳清は半数以上の９店舗で女性を店長に任命しました。また青柳清は２人の女性をダイセイコーの取締役に抜擢しました。我が国で職場での男女の差別を禁止し、募集、採用、昇級、昇進などで男女とも平等に扱うことを定めた「男女雇用均等法」が施行されたのは１９８６年（昭和61年）です。青柳清はそれ以前から女性の能力に注目し、男女の格差どころか女性を会社の主役として活躍させていたのです。

　「一般社団法人スポーツ吹矢振興協会」の地域支部では女性の支部長が続々と誕生しています。
　東京都の「北区中央クラブ支部」（西田京子支部長）「板橋区撫子支部」（鈴木佐多美支部長）、埼玉県の「戸田さくら草支部」（勢頭詩子支部長）、神奈川県の「リュウグウ相模原支部」（山川佳純支部長）、山形県の「さわやか浜風支部」（須田和子支部長）「Ｃｉｅｌ酒田支部」（齋藤ちふみ支部長）、福島県の「花火の里浅川支部」（矢内圭子支部長）、岐阜県の「ぎふ瑞浪化石支部」（安藤美幸支部長）「チームフレッシュ支部」（奥村登美子支部長）、奈良県の「奈良せいわ王寺支部」（河田恒子支部長）、富山県の「いきいき富山支部」（寺脇清子支部長）、福井県の「福井支部」（山田啓子支部長）、「はやぶさ相模原支部」（樋口巧子支部長）のうち「板橋撫子支部」と「チームフレッシュ支部」は女性ばかりの支部、「リュウグウ相模原支部」の山川支部長は20歳の大学生です。
　青柳清の「ジェンダー平等」の精神は１００％「一般社団法人スポーツ吹矢振興協会」に引き継がれています。
（以下、次号）

青柳清の「心技練磨」の揮毫。スポーツ吹矢の「心技練磨」に男女の性差はない。